

# 優秀賞

【工法の種類】筋かい・構造用合板・真壁上下あき  
構造用合板・ステンブレス「コボット」

【応募者名】  
有限会社タクト建築工房

一宮市南小湊 N邸 建築年 昭和49年  
土葺き瓦屋根 土塗り壁 2階建て  
1階 75㎡ 2階 23.19㎡



北外観



南外観

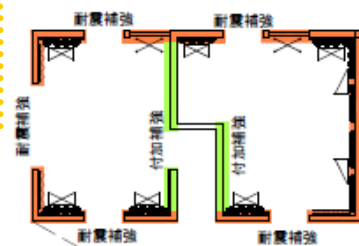


筋かい・真壁上下あき・コボット



構造用合板・真壁上下あき・コボット

2階が載る1階部分を重点的に補強。  
家屋の中央がシェルターとなった。



和室 着工前

ステンブレス「コボット」  
を採用し、採光と通風を確保  
模様替えと耐震補強を両立  
させる改修工事となった。



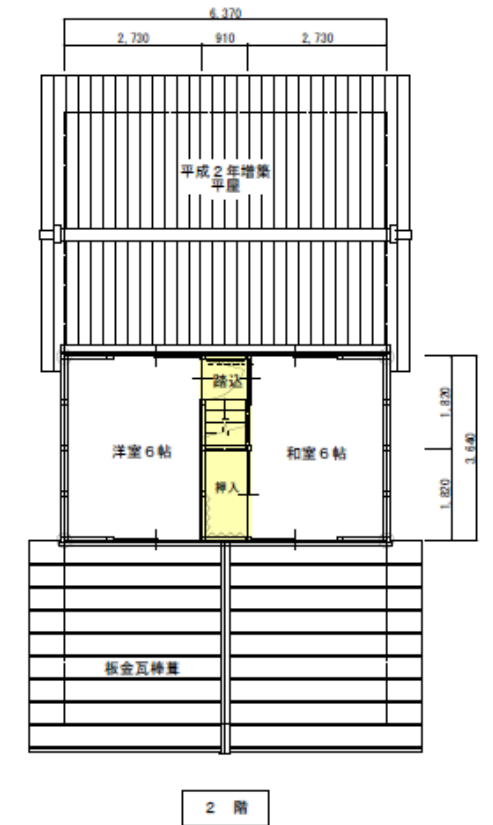
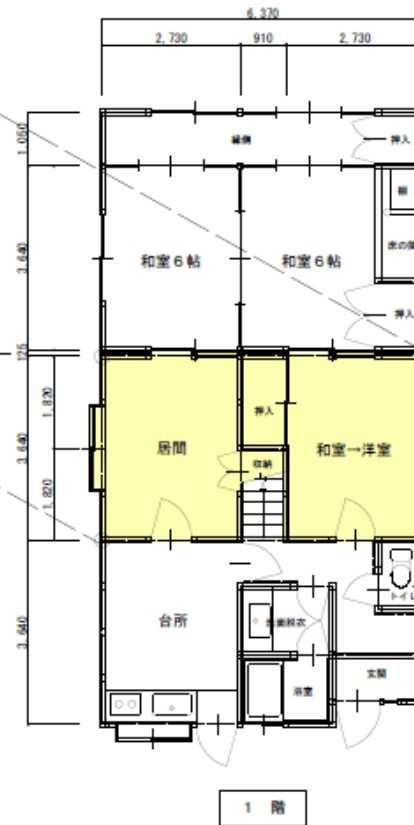
洋室 工事完了

●耐震診断値

改修前	X方向	Y方向	改修後	X方向	Y方向
2階	0.71	1.10	2階	1.05	1.11
1階	0.40	0.74	1階	1.03	1.25

●改修工事費 155万円

●工期 6週間



土葺瓦が載る2階建て建物。2階の載る1階部分を、模様替えと併せて耐震補強をとのご要望であった。外部からの工事は一切行わず2階のある1階をあたかもシェルターを作るよう、模様替えと併せて補強を行った。幸い、北側の平屋部分は鉄金屋根、南側の平屋部分は平成2年の増築建物であり筋かいが推測できたため、平屋部分は一切手を掛けなかった。

耐震工法は、筋交い・構造用合板など一般的な工法を採用した。真壁上下あきそして通風・採光の課題を克服するためにステンブレスを採用した。

## 【講評】

対象建物は、二階部分の面積が述べ床面積の四分の一以下であり、この部分が建物の中央部に位置し、かつその一階が比較的小さい空間に区切られていることである。耐震補強は、この建物の特徴を十分に生かし、また地震時に二階部分がより強い地震力受けることも想定し、補強部分をこの二階建て部分に集中している。又部屋の模様替えに合わせて行うことにより、耐震合理性と共に、工事費の削減を図っている。同時に採光や通風等の居住性の確保に努めている。補強方法は、一般化している補強方法の特徴を十分把握し、それぞれの部分に生かした工法を採用している。さらに、補強後の強度を高さ方向、平面方向共にバランス良く配置している。耐震性だけでなく、建物に要求されている様々な機能を巧みに生かした補強方法は、専門家としての匠の技を十分に発揮しているものとして高く評価し優秀賞とする。